

令和2年7月1日

学校法人 ぜんりょう学園
専門学校 北九州自動車大学校
校長 籠谷 正 則

「自己評価及び学校関係者評価結果 2019年度版」 報告

学校法人 ぜんりょう学園 専門学校 北九州自動車大学校は、2019年度における自己点検・自己評価を実施したのち、学校関係者評価委員会を令和2年6月15日（月）に開催し、各評価項目についてまとめた結果を学校教育法、同法施行規則並びに専修学校設置基準における学校評価に関する規程に基づき「自己評価及び学校関係者評価結果 2019年度版」として、ここに公開いたします。

学校関係者評価委員会のご意見を真摯に受け止め、本校の教育と運営についてさらなる向上を目指し、教職員一同、努力して参ります。今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

学校関係者評価委員名簿

氏 名	所 属 先
寺崎 浩二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 教育課課長
金丸 孝弘	株式会社ジャパン三陽 名古屋営業所
成重 哲	株式会社スズキ自販福岡 本社 サービス本部
宮本 達也	宮本商事
穠枝 浩志	本校同窓会副会長

(1) 教育理念・目標・人材育成像

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	理念は学園創立者の建学の精神「自主独立と新開拓者精神（ノヴァフロンティア）」として示され、この精神に沿って、教育目標・育成人材像は、自動車整備に関する学術理論実施技術を指導教育し、人類社会の福祉に貢献する有能な技術者を育成することと明確に学則に定め、学生便覧等で教職員及び学生に周知徹底している。また、各学科における具体的な学修成果や学生が身に付けるべき資質・能力について、ディプロマポリシーを本年度に作成し、本校ホームページに公表した。	4	現在の取組を継続する。	
1-2 学校における職業教育の特色は何か	実践的な自動車整備士を育成するため、実務経験豊富な多くの教員を配し、また、企業と連携した実習・演習を実施している。さらに、広い視野を持った自動車整備士を育成するため、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を高めるソーシャル検定（JAMCA）、福祉車両取扱士などの資格取得に取り組んでいる。	4	企業と連携した実習・演習をさらに強化して行きたい。また、有用な社会人となるために必要な「社会人基礎力」とともに、「人間力」の養成にも努めたい。	
1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	社会のニーズである高校生から見た魅力ある学校づくりと、進化する自動車技術に対応できる人材を育成するために、平成 30 年度にカリキュラムとそのシラバスについて全面的に見直しを行い、2019 年度の 1 年次と 3 年次に新カリキュラム	3	本校の長期的将来構想については社会情勢を踏まえ、検討を重ねたい。	

	を実施した。本カリキュラムは、令和2年度に完全実施の予定である。なお、魅力ある教育と業界で必要とされる技術者養成をさらに推し進めるため、今年度開講した全科目のシラバスを公開した。また、入学者数減少に伴う長期的な将来構想については検討を行っているが、その構築には至っていない。			
1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	学校の教育目標や育成人材像については学生便覧に明示し、学生や保護者に周知している。また、学校の特色や現状での将来構想については学校新聞や本校ホームページに公開している。	4	現在の取組を継続する。	
1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	年に2回、定期的に自動車関連企業からのニーズをヒヤリングし、その結果をシラバスに反映させることにより、育成人材像を改善している。また、インターンシップや企業と連携した実習・演習を実施することにより、教員及び学生は業界のニーズを肌で感じ取っている。	4	年々企業との連携が密になっており、様々な機会を設け、成果ある教育活動に発展させたい。一級4年生にはインターンシップを実施している。また、現在、1年生は希望者のみ、2年生は受入れ可能な企業へ依頼してインターンシップを実施しているが、その輪をさらに広げ、低学年から実践教育を通じて学生自身が企業のニーズを汲み取れる環境をさらに整備したい。	今後も継続していき、必要ならば改善し、実践教育についても深めていただきたい。 インターンシップについては、福岡県自動車整備振興会が学校と専業整備工場との仲介を行っており、北九州自動車大学校も検討してはどうか。

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・ 育成人材像を明確化するため、ディプロマポリシーを作成・公開したが、社会的評価を踏まえた改善を検討したい。
- ・ 将来構想については、年度ごとの計画が立案遂行され、教職員には内容の周知を行っているが、長期的将来構想についても検討を重ねたい。
- ・ 全科目のシラバスを公開したが、業界の意見を聞きながら、社会のニーズを更に取り入れた授業内容に改善して行きたい。
- ・ 教育目標や育成人材像は、社会のニーズとともに大きく変化していくと考えられる。自動車業界は CASE によって近未来のクルマ社会の方向性が示されている。また、自動車整備業界では、法律の改定に伴い自動車特定整備制度が令和 2 年 4 月より施行され、数年後には、車載式故障診断装置を活用した検査（OBD 検査）も導入されることになっている。本校は、このような大変革の時代に向けた整備士を養成する教育機関として、監督官庁や整備業界の動向を注視しながら更なる教育内容の改善を図って行く。

(2) 学校運営

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確である。教務課、学生課、学事課、進路支援センターにおいて毎年度初めに目標が作成され、全教職員に認識されると同時に活動の基軸となっている。運用についてもスムーズに展開できている。	4	現在の取組を継続する。	
2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	運営方針に沿った事業計画を策定し、実行のための予算を作成している。	4	現在の取組を継続する。	
2-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	本校を含む学園全体の運営組織は、変更がある度に校務分掌一覧を配布している。意思決定機能は、学園では寄附行為により、また学校では学則等により明確化されている。	4	現在の取組を継続する。	
2-4 人事、給与に関する規程は整備されているか	人事は就業規則により、給与は教職員給与規程、退職手当給与規程等により整備されている。	4	現在の取組を継続する。	

2-5 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	教務課、学生課、学事課、事務局等の管轄部署を区分けして整備されており、それぞれの職務責任者が各部署とも連携を取りながら意思決定を図っている。学校運営に関する諸問題や改善策は、定期的に運営委員会（校長、副校長、学務部長、学科長、事務局長、総務部長で構成）を設け検討し、定例の教員会議で諮られ、実行に移している。	4	迅速かつ慎重な議論を行うための運営組織の見直しは継続して適宜を行っていく。	
2-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	入学当初に諸規定等を記載した学生便覧を配布しており、常日頃より実習朝礼や毎週実施されるホームルーム等を通して法令遵守等の重要性等を指導している。	4	現在の取組を継続する。	
2-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	ホームページにおいて学校概要やシラバス、職業実践専門課程の情報、財務状況等を開示し、積極的に情報公開を行っている。また日頃の活動内容についても SNS 等を通じて周知に努めている。	4	現在の取組を継続する。	
2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	成績処理や出席管理は本校独自のシステムを構築し、迅速かつ正確に行われている。	4	今後も現状に即したシステムの効率化を図って行きたい。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・業務効率向上のために ICT 化を推進する。
- ・ホームページや SNS を活用し、今後も積極的な情報配信に努めたい。

(3) 教育活動

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、教育理念を踏まえ国土交通省の規程に沿って編成されている。また、実施方針等は運営委員会で策定し、教員会議に諮られている。さらに、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程編成委員会の意見を反映させている。	4	定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていないが、より良いものにしていくためには全教員が意見を述べやすい環境も整備したい。	
3-2 教育理念、育人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した時間の確保は明確にされているか	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえたカリキュラムを編成し、教務課が主体となって各科目のシラバスを作成し、その中で学習時間の確保を明確にしている。なお、定められた時間内では学習到達目標に達しない学生については、補講を実施するとともに、学科期末試験前を休講とし希望者も含め復習のための補講授業を実施している。	4	学習到達目標に達しない学生に対しては補講を実施しているが、放課後以外にも補講に充てられる時間として、補講授業を計画し実施したが、強制力が無い中で学生をいかに動員するかは検討したい。	
3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けたカリキュラムは、国土交通省指定の教育科目を踏まえて体系的に編成されている。また、今年度の1・3年生からは大幅にカリキュラムの見直しを行い、教育時間・科目数の適正化を図っている。	4	科目数・教育時間数の多さから目標を十分に満足できているとは言えない学生もいることから、科目数・教育時間数の適正化を図っているが、新カリキュラムへの完全移行は次年度となるため、経過を観察していく必要がある。	

3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	業界と連携した実習やインターンシップを実施し、キャリアアップに努めている。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会での意見についても積極的に導入している。また、職業人としての能力を身に付けることを教育目標の一つとし、クラス担任を中心に学生指導を徹底している。	4	現在の取組を継続する。	
3-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	企業及び業界団体から委員を迎えて教育課程編成委員会を年2回開催している。その中で、カリキュラムを見直し、シラバスに反映している。	4	現在の取組を継続する。	
3-6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	一級4年生時にインターンシップを実施し、毎日、レポート提出を義務付けている。また、担当教員は定期的にインターン先を訪問し、学生を指導している。また、1-5で述べたように、現在、1年生は希望者のみ、2年生は受入れ可能な企業へ依頼してインターンシップを実施している。さらに、企業と連携し、1年生に対しては自動車点検実習、2年生に対しては故障診断実習を実施しており、シラバスにも明記している。	4	今後は一級生だけではなく、二級生の希望者には全員インターンシップを実施できるよう積極的に企業に受入れの協力をお願いして行きたい。また、インターンシップ中の保険加入が必要となり費用が発生するので、負担をどうするかを明確にしたルール作りが必要である。	
3-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	学生による授業評価は、前期と後期に年2回実施している。アンケート結果については、教員間で回覧し、相互評価することにより、各自の授業改善に生かしている。	4	引き続き、授業評価を記入する学生の負担を軽減することも検討したい。	

3-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	業界による外部評価は、学校関係者評価委員会により行われている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただき、改善点を取り入れているので、特に課題を感じていない。	
3-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は、学則や教務規程によって明確に定めている。学生には学則及びその他関連規程を掲載した学生便覧を全員に配布し、オリエンテーション等で周知徹底している。教務規程の見直しを行い、実習の成績評価について明確に定めた。	4	履修認定に係る補講の実施について、補講完了まで時間が掛かる学生が多いため、極力早く完了するよう教務規程の見直しを行いたい。	
3-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	自動車整備士資格取得に向けたカリキュラムを編成している。その他、就職の際取得しておけば有利な資格については、夏季・春季休暇等を利用し、資格取得のサポートを行っている。必須資格と選択資格に分け、学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。	4	最終的な目標である自動車整備士資格取得については、より確実な合格に向けた対策とその方法を、状況や学生の能力に応じて対応できるよう、全教員に意見を求めながら確立したい。	
3-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設の指定基準に準拠するため、資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を確保している。また、一級未取得者であっても、上質な技術、高度専門知識資格を満たしている教員を確保している。	4	今後は更なる人材育成のために、教員各個人の経験知や暗黙知と呼ばれるものをどう学生に伝えていくかについて、さらに積極的に取り組みたい。	

3-12 関連分野における業界等との連携において、優れた教員（本務・兼務含む）を確保しているか	新規採用を行う際、3-11 を満足する教員を関連分野の業界から紹介いただき、人間性や教育に対する意欲などを面接で確認することで、若くて優れた教員を確保している。	4	現在の取組を継続する。	
3-13 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	整備振興会、マツダ、バンザイ、JAMCA などによる新技術研修は、毎年、順次教員が受講している。教員の指導力育成に関する研修は、JAMCA が主催して行われており、順次教員が参加している。	3	引き続き、若手教員の指導力育成に関する研修について、講師を招き学内で実施することで、より質の高い教育となるよう取り組みたい。	色々な研修に参加したことによるプラス要因は見えるようになっているか。
3-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	講師を招き、事務職員に対して学生募集に関する戦略について、定期的に指導をお願いしている。留学生や日本学生支援機構奨学金に関する講習会には、教員とともに必ず参加している。	3	事務職員に求める能力は多岐に亘る。今後とも継続して、能力開発に関する研修は積極的に参加させたい。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・教員会議の場で意見を聞く機会は増えたが、決まった教員からしか意見が出ないため、全教員が意見を述べやすい環境を整備して行きたい。
- ・教員自身の一級自動車整備士の取得率が100%となるよう教員の意識改革を図って行く。また、授業の内容プラス人材育成に必要と思われる経験知や暗黙知と呼ばれる教員の知識を、いかに学生に伝えていくかを引き続き全教員で検討して行きたい。
- ・事務職員に求める能力は多岐に亘る。今後とも継続して、能力開発に関する研修は積極的に参加させたい。
- ・企業側からの講師派遣実習または企業のトレーニングセンターへ出向いての実習が、学生・教職員に良い影響を与えている。今後も企業側とさらに連携して充実した教育活動の推進を図りたい。

(4) 教育成果

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
4-1 就職率の向上が図られているか	<p>学校に求職希望を提示した学生を対象に就職斡旋を行っている。面接指導や書類作成に関する指導はクラス担任がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。社会教養学を導入し、面接指導や書類作成の講義も実施している。</p> <p>2年、4年進級時に、学生が就活に求める要素を約50項目に渡り就活アンケート調査を実施することでこれを次の1、3年への就職指導の参考とした。その内容は企業へフィードバックし、企業からの改善も見られる。企業による説明会や見学会は多く実施されており、それに参加することで幅広い視野を持つことができている。これにより新しい分野や近年少なかった分野にも受験希望者が出ている。</p>	4	<p>就活アンケートの調査項目は状況に合わせて変更していきたい。</p> <p>卒業後の離職については離職前や離職後に企業より連絡をいただくことも増えてきた。その場合は担任から連絡をして本人にアドバイスをするようにしているが、できれば離職前に学校としても対応ができるよう企業へお願いをする。</p>	<p>新型コロナによる求職減少の可能性があり、就活への今までとは違った対応が必要になると思う。</p>
4-2 資格取得率の向上が図られているか	<p>自動車整備士の資格取得については100%合格を目指して、11月から3月まで放課後受験予定者全員に対して全教員が「居残り対策」を実施し、資格取得率の向上を図っている。具体的に、二級でのクラス編成は習熟度別に4クラスとし、定期的に筆記試験を実施し、クラスを入れ替えている。</p> <p>国家試験の基本的傾向は変わらないので学生個</p>	4	<p>2019年度の一級自動車整備士の合格率は92.3%であり、二級自動車整備士の合格率は96.1%であった。一級及び二級自動車整備士資格については全員合格を目指し、講習方法の改善に努めたい。さらに、授業中においても資格取得を意識した対</p>	

	人の理解度を把握した上で分野毎に理解させることに重点を置いている。昨年度の二級不合格者に対しては卒業後の学習指導を学内でも行い、10月の試験にて合格となった。		策を検討したい。	
4-3 退学率の低減が図られているか	退学の理由の多くは、欠席しがちになり学業不振に陥り退学している。従って、欠席する場合はクラス担任に理由を報告することを義務付け、欠席しないよう促している。成績不良の学生については、定期的にクラス担任と学科長が学生と面談する、場合によっては保護者も含めて面談し、勉学に対する意識向上や生活習慣などの改善をアドバイスしている。経済的な理由による場合は、日本学生支援機構の奨学金や企業奨学金を利用するよう勧めている。その他、進路のミスマッチングなどによる退学があるが、学校として、組織的、計画的に退学者の減少に努めている。成績不振の学生については、理解度を向上させるため前期及び後期の学科期末試験前に少人数での勉強会を開講した。	3	退学率の低減のために様々な取り組みを行っているが、減少できていない。学生と教員間の信頼関係をさらに構築して行くことで、退学率の低減を図りたい。また、社会的要因として、自動車整備士の社会的地位や自動車整備士資格取得の重要性の認知度が低いことが勉学を続ける上でネックになっていることも考えられ、大きな課題である。	
4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	卒業生全員の活躍や評価を把握するのは難しいが、企業との情報交換によりそれらを把握するよう努めている。その中で技能競技大会への出場や離職の状況も知ることができつつあるが、全体像	3	卒業生の活躍を把握するためには、企業との連携を密にする機会を多くする必要がある。また、企業へ依頼し、卒業生の状況について聞き取	

	の把握までには至っていない。企業には卒業生の活躍状況がわかれば教えて欲しい旨はお伝えしている。		り調査も行う必要がある。さらに、卒業時に卒業生自ら活躍ぶりを本校に報告するようお願いする。同窓会の協力もお願いしたい。	
4-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	企業に対して卒業生の仕事ぶりや評価などについてヒヤリングを行い、仕事の内容やどのような能力を身につけておくべきかを授業の中で各教員が適宜学生に伝えている。また、1年生全員が授業の一環として4月に各企業を見学し、卒業後のキャリア形成の重要性を肌で感じさせている。これには自身の反省や今後の目標設定等、一定の効果があることが感想文で確認されている。	4	卒業生と接することにより、学校教育においてどのような能力を身につけておくべきだったかなどについて聞き取り調査を行うことを検討する。キャリア形成のための外部による講習会を検討したい。	日頃より各教員が仕事内容や経験談等、伝えていることと思うが、卒業生からのフィードバックについてもぜひ実施していただきたい。

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・就職率は100%を維持しているが、就職後の離職率が増加している。企業から見た離職の原因などについて調査し、離職率増加に歯止めをかけたい。
- ・自動車整備士の資格取得の必要性を学生に認識させ、さらなる指導方法の改善を図る必要がある。特に、二級に関しては全員取得ができるように、一層の改善工夫が必要である。
- ・退学率低減については、ここ数年の大きな課題である。退学理由は様々であるが、欠席による勉強意欲の衰退と経済的事由が目立っている。自動車整備の社会的意義や楽しさを伝えながらも躰教育の両立を検討し、人材育成に努めることが必須課題である。
- ・学生が就活の際に求める要素についてアンケート調査を行った。このデータを就職指導に活かし、企業にもフィードバックすることで就職後のミスマッチを防ぎたい。

参考資料：2019 年度における退学率、自動車整備士合格率並びに就職率

1) 退学率

7.9% (平成 30 年度 8.5%)

2) 自動車整備士合格率

一級筆記 92.3% (平成 30 年度 100%) 2 年次修了時に全員二級ガソリン、ジーゼル取得済

二級ガソリン 92.0% (平成 30 年度 96.4%)

二級ジーゼル 84.5% (平成 30 年度 92.1%)

3) 就職率

就職希望者に対して 100% (平成 30 年度 100%)

(5) 学生支援

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	<p>本校では「進路支援センター」を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し、多数の求人獲得に努力している。その結果集められた資料は、就職を希望する本校学生全てが自由に閲覧でき、就職活動の指針となるようにしている。また、クラスによって指導内容に差が生じないよう担任への就職活動取組指導に努め、担任及び進路支援担当教員が面接指導や書類作成に関してきめ細かく指導を行うよう支援体制を整えている。</p> <p>企業説明会については、開催形式を変更し、各企業が魅力をアピールできる態勢を作り、採用試験において特定の企業に希望が集中する傾向がないように努めている。</p>	4	<p>早期離職者減少のためにも、企業とのミスマッチをできるだけなくせるように企業研究をしっかりと行うよう指導に努めたい。</p>	<p>具体的取組の中で記載されている「特定の企業に希望が集中することがないよう」ということの意味がよく分からない。会社が平等にアピールできるように、ということは分かるが、学生が選んだ結果、希望が偏ってしまうことは駄目なことか。</p>
5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	<p>学生からの相談は、主にクラス担任が対応するが、相談内容によっては複数の教職員が関わるようにし、教職員間の情報共有を密にしている。また、セクハラに関する相談も女性教職員が担当し、気軽に相談できる窓口も用意され、女性教職員採用で女子学生の相談体制も整っている。</p>	4	<p>現在の取り組みを継続するが、特に、人間関係に関する案件については慎重に対応する必要がある。</p>	

5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	<p>入学金の減免、授業料の減免、日本学生支援機構等の奨学金制度、企業奨学金制度、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能している。また、来年度から始まる高等教育の修学支援制度にかかる給付型奨学金（授業料等減免策を含む）も導入し、採用希望者の選考を行い、次年度からの給付に備えている。</p>	4	<p>夜間のアルバイトによる遅刻・欠席の増加、退学など問題の全面解決には至っていないが、来年度からの給付型奨学金制度が機能し始めると、アルバイトに従事する時間を少なくでき、遅刻・欠席の減少、勉強時間の確保に繋がられるため、経済的な理由や未履修による退学者の減少に努めたい。</p>	
5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	<p>年に一回の健康診断を行い、学生の健康管理は適切に実施されている。再検査が必要な学生に対しては再診することを指導し、結果の提出をお願いしている。</p>	4	<p>現在の取組を継続する。</p>	
5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	<p>課外活動は、授業時間数が多い中では、十分に活動できているとは言えない。H29年度から活動開始したエコランについては現在、メンバーの卒業により活動休止中であるが、学校として場所と予算を提供する支援体制は整えている。</p>	3	<p>学生が自主的に課外活動を提案してきた場合、積極的に支援していきたい。課外活動は同好会顧問のボランティア精神によるところが大きいので、今後は顧問への支援体制強化を検討したい。</p>	<p>活動再開への具体的な取組はあるのか。学生が自ら休止している活動を始めたい、というのは無理があると思う。</p>
5-6 学生の生活環境への支援は行われているか	<p>生活環境改善の一環として、遠隔地出身者について指定民間宿舎を優先的に紹介し利用させており、支援は行われているが、近年、一般のアパートでの一人暮らしが増加しており、規則正しい生活が送れるようクラス担任を中心に支援・指導を行っている。</p>	4	<p>クラス担任を中心によりきめ細かな支援・指導を行いたい。</p>	

5-7 保護者と適切に連携しているか	中間と期末の試験結果を保護者に郵送し、保護者からも学生の生活環境の改善指導をお願いしている。さらに、必要に応じて「電話連絡」により学生の状況を保護者に報告するなど、保護者と学校が情報共有することに努めている。また、昨年度より導入した出席管理システムを、保護者との連携、学生指導に有効利用している。	4	可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。	
5-8 卒業生への支援体制はあるか	卒業後、数年経った離職者に対する就職支援を準備しており、利用者は増加する傾向にある。同窓会事務局を教員室内に設置し、校内にて定期的同窓会役員会を実施し、総会の案内事務も行っている。また、卒業後の状況についてはインターンシップの訪問にからめて確認し、フォローアップに努めている。さらに、卒業生への活動報告や連絡事項は、本校ホームページ内に開設した同窓会コーナーより発信している。卒業後、二級自動車整備士の国家試験を不合格となった希望者に対して、学内で受験勉強を指導している。	4	現在の取組を継続する。	
5-9 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	「進路支援センター」を中心に企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。また、職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき、企業ニーズを直接学生に伝える企業講習も増やしていけるよう取り組んでいる。	4	企業が気軽に企業ニーズを発することができる体制作りを継続検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んでいくかの工夫をさらに積極的に検討する。	

5-10 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備士業界の動向を紹介し、自動車整備の模擬授業も展開している。また、高校訪問を行い、高校側が望む内容で職業教育を実施できるよう取り組んでいる。	4	現在の取組を継続する。	
---	---	---	-------------	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・ 課外活動は、時間的余裕もなく、学生自ら課外活動を行いたいとの要望がほとんど挙がらず、教員主導のカート走行会等、散発的に活動している状態である。今後は、学生が中心となって取り組める活動、およびその環境整備を行いたい。
- ・ 卒業生支援については、同窓会活動の充実が必要であり、本校ホームページに同窓会ページを作り運用しているが、さらに、Facebookなどを活用して積極的に活動を推進して行きたい。
- ・ 社会のニーズを踏まえた教育環境を整備するため、企業が気軽に企業ニーズを発することができる体制作りを継続検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んで行くかの工夫をさらに積極的に検討する。
- ・ 就職活動を含めた学生相談をよりきめ細かく行っていきたい。
- ・ 来年度から始まる高等教育の修学支援制度にかかる給付型奨学金の申請を促進することにより、経済的な理由や未履修による退学者の減少に繋がられるよう努めていきたい。

(6) 教育環境

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
6-1 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備は、第一種養成施設の指定基準を満たし、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている。教育用機器・教材に関しては、実習計画に沿って年度毎に計画的に購入している。今年度は2階の実習場に門型リフトを3基設置、HV車を10台、小型FF車を6台購入し、教育環境を向上させている。また、企業からの教材車両等の提供が増加している。	4	昨年度購入した実習車両、今年度購入した実習車両及び門型リフトを活用したカリキュラムを検討し、早速次年度より実施したい。	HV車特有の実習について、何か実施しているのか。
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	一級課程のインターンシップは、第一種養成施設指定基準として明確に定められており、3-6に述べたような教育体制を十分に整備し、確実な学習成果を上げている。二輪自動車整備士コースは、学外実習として指導教員が引率して自動車学校へ行き、実際に使用されている二輪車の整備・点検を行っている。昨年度より計画していたタイへの海外研修旅行を実施し、海外の自動車産業の動向、世界遺産や異文化に触れることができ、学生からは概ね好評であった。	4	一級課程のインターンシップと二輪自動車整備士コースの学外実習は、現在の取組を継続する。海外研修旅行については、学生は当然のことながら、教員の意識付けが必要だと感じた。次年度以降も実施予定ではあるが、教員の積極的な協力も得たい。	

6-3 防災に対する体制は整備されているか	災害時の連絡体制については、緊急連絡放送や避難経路・避難場所を各教室に掲示することで対応している。緊急時の連絡体制は学生にも周知しており、また、消防署と連携し学園全体で訓練を毎年実施している。	4	災害発生時の具体的な行動については、災害対応マニュアルを作成するとともに、各自が責任を持って認識しておく必要がある。	
-----------------------	--	---	--	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・今年度新たに購入した車両や提供を受けている車両も含めて、これらの教材を有効に活用できるよう教育内容を検討する。
- ・老朽化した実習車両については、各実習担当者と協議を重ね、教科書及び現場での作業に結び付く車両を検討・購入した。次年度に向け、具体的な利用方法を早急に検討したい。今後も、実習車両は入れ替えや廃止を含めて継続して検討していきたい。
- ・海外研修については、教員が学生を盛り上げていく必要がある。残念ながら全教員が同じモチベーションで臨めていない印象を受けるため、議論を重ね教員も実施することの意義を共通認識として持ってもらうための研修を実施したい。
- ・防災に対する体制は、消防署立会いのもと学園全体で実施しているが、災害発生時の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを作成し、全教職員が認識しておく必要がある。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	H29年度より立ち上げられた「募集戦略室」の活動は再構築され、運営委員会において募集計画素案を協議し、教員会議での審議・報告により方向性の共有や計画実施を進めている。従来から存在している各制度の見直しを行うなど環境の変化に適応しながら状況を分析し、学生募集活動は適正に行っている。本校ではオープンキャンパス（OC）に参加した高校生が受験するケースが多いので、OCにおいて本校の魅力や自動車整備士の社会的意義などを伝えられるように工夫している。ホームページのリニューアルにより動画配信も含めて本校の情報をわかりやすく閲覧者に伝えられるようにした。なお、留学生の受入を H30 年度より実施している。入学予定者の 5%前後を留学生受入人数としている。	4	県内広報活動の展開に加え、県外にも積極的に活動したい。特に、一級自動車整備士は令和2年4月より施行される自動車特定整備の資格が付与されることや、二輪コースが九州中四国で唯一のバイク専門コースであることの強みを生かし、募集活動を展開したい。ホームページは大きくリニューアルしたが、変化の度合いや速度がより大きくなっている世の中に対応できるようにしていきたい。パンフレットや入試情報を伝える募集要項についても同様に検討していく。	現状では、二級でも研修を受ければ特定整備を行えるため、一級に特定整備を付与されることを強調しすぎると学生に誤解を与えてしまうのではないか。
7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	教育成果である資格取得状況や就職状況は、志願者が専門学校を選択する上で大変重要な判断材料であるため、教職員が志願者や各高等学校でガイダンスを実施する際に正確に伝えている。また、このことは、ホームページでも情報を公開している。さらに、教員によるガイダンス実施は、一部の教員ではなく、他の教員も実施できるよう養成を行っている。	4	現在の取り組みを継続する。	

7-3 学納金は妥当なものとなっているか	高騰している諸経費や安全・環境性能が著しく進展している自動車技術に対応する高度な教育環境を整える目的や、消費税増税に伴う諸経費の増加により、令和2年度入学生より入学金および授業料の変更を決定した。2年制及び4年制ともに金額変更前から在学中の校納金総額が40,000円上昇する。ただし、入学金は100,000円減額し、入学手続き時の経済的負担を軽減するようにしており、学納金は妥当なものとなっている。	4	現状を維持するが、物価等の状況を踏まえた学納金の見直しは今後とも引き続き検討したい。	
----------------------	---	---	--	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・学生募集については、厳しい状況にある。福岡県専修学校各種学校協会や高等学校進路指導研究会による取り決め事項等を遵守した上で、志願者が適切な進路選択が行えるよう、パンフレットや進路情報企画への掲載、ホームページでの情報公開、オープンキャンパスの開催と内容の工夫、高校ガイダンスへの教職員派遣などにより、さらに広く情報提供を行っていく必要がある。
- ・自動車は国の基幹産業であり、その安全と安心を確保するためには自動車整備士の存在は不可欠であるが、近年慢性的に整備士は不足している。整備士の不足をアピールするとともに、先進技術に対応するメカニックの重要性を強くアピールし、積極的な募集活動を行っていきたい。
- ・ここ数年の学生募集の結果は、18歳人口の減少、若者の車離れ、高校生の就職への好況などが主な原因なのか、満足した数字を残せていない。本校の魅力を構築し、入学者減を解消して行くことが本校の最大の課題である。
- ・二輪コースが九州中四国で唯一のバイク専門コースであることの強みを生かし、九州中四国地域に募集活動を展開したい。
- ・教員によるガイダンス実施は、一部の教員ではなく、他の教員も実施できるよう養成を行っており、その取り組みを継続する。

(8) 財 務

評価項目	具 体 的 取 組	自己評価	課 題 と 改 善 策	評価委員会の意見
8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	一切の負債を抱えておらず、財務基盤については現状では安定しているといえる。しかしながら、学生からの学納金で学校運営経費が十分に賄われておらず、募集戦略室を設置し、入学者確保へ向けた策を講じて実践している。また学納金の見直しを行い、次年度新入生より適用することとした。	3	安定的な入学者の確保が急務である現状は変わらないが、社会ニーズを見据えた適切な定員規模の見直しや、それに沿った人員体制の見直しも今後必要となる。	
8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	毎年度3月までには次年度予算を立て、収支計画を行っている。収入に即した支出計画となるよう節約に努め、長期的な事業計画については適切な支出を行っている。	4	現在の取組を今後も継続する。	
8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	顧問税理士の指導の下、定例の会計監査を適正に実施している。監査で指摘を受けた際には直ちに改善を行っている。	4	現在の取組を今後も継続する。	
8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	毎年度の決算については、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照法、財産目録等をホームページに公開している。	4	現在の取組を今後も継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・安定的な入学者の確保と退学者の低減に引き続き努めていきたい。
- ・次年度より修学支援新制度が開始されることにより入学層の拡大が期待される。積極的な制度の周知に努めたい。

(9) 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
9-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準、監督官庁の許認可などの届出等は適正になされ、それらについては遵守と適正な運営がなされている。	4	法令順守の取組は信頼の基盤であるので、法人事務局や教育現場においても現在の取組を今後も継続する。	
9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人データの電子記録の取り扱い、紙面による情報の漏えい防止等学校が有する個人情報の取得や利用は適正な管理がなされている。	4	現在の取組を今後も継続する。	
9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	学校や各教員を対象に自己点検・評価を実施し、毎年見直しを行っている。その内容については学校関係者評価による検証も行っている。抽出された問題点は改善し、本校の健全性を保っている。	4	定期的に確認することにより、結果として自己点検・評価のレベルアップに繋がっているため、今後も継続し、精度を向上させていきたい。	
9-4 自己評価結果を公開しているか	ホームページにおいて、自己点検・評価ならびに学校関係者評価の結果を公開している。	4	現在の取組を今後も継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・自己点検・評価については毎年見直しを行い、結果として多くの項目の改善に繋がっているため、今後も現在の取組を継続する。
- ・学校関係者評価においても継続効果が表れており、良い方向に進んでいるため、今後も現在の取組を継続する。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を積極的に実施しているか	H29年度より学園祭において『北自大モーターフェス』と称し、国産車・輸入車ディーラー様から様々な車両を出展いただき、学生だけでなく地域の方々にも車両を見学して頂ける機会を設けている。また、英検、公文、自動車整備士国家試験などに試験会場として教室を貸し出し、ハーレーダビッドソンジャパンやボッシュ、ネッツトヨタ北九州などには講習会会場として実習場などを貸し出している。	4	現在の取組を継続する。	
10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	年2回の献血活動を行っている。また、北九州市の「まち美化キャンペーン」に全学生が参加し、地域の清掃活動をしている。	4	現在の取組を継続する。	
10-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受諾等を積極的に実施しているか	本校への入学者増のために、提携高校を対象に、高校生を本校に招き、本校施設を使用した体験授業を実施している。また、福岡県自動車整備振興会の技術講習を北九州分教場として受諾している。	4	提携高校在校生を対象にした体験授業を継続、発展できるよう努める。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・学校の施設貸出等は地域や業界への貢献の一環として、今後も積極的に行っていく。
- ・年2回実施している献血活動では、学生に積極的に参加してもらっており、今後も継続していきたい。

(11) 国際交流

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
11-1 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	日本での自動車整備士の人材不足を補うことと、東南アジアにおける日本車の進出に伴い母国で必要とされる自動車整備士の養成を目指して、平成30年度に9名の留学生を受け入れた。しかし、今後の留学生受入れ戦略は、学生数確保の手段とするのではなく、あくまで世界各国で通用する優秀な自動車整備士の育成に力点を置く。このため、2019年度及び令和2年度ともに入学試験合格者数は3名に絞った。なお、本校学生の海外派遣は当分の間実施しない。	4	初めて留学生を受入れて2年が経過したが、日本語能力・勉学意欲・生活態度などに問題がある者がいる。今後の受入れについては、このような留学生をできるだけなくすため、日本語入学試験の最低合格点を引き上げることを検討する。また、留学生の教育や生活の指導が教職員一丸となって推し進められる体制の構築をさらに進める。	
11-2 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な体制が整備されているか	教員室内に国際交流室を設置し、留学生の責任者と担当職員を配置している。この交流室での業務は、在留資格更新や資格外活動に関して適切な指導を実施するとともに毎日留学生が登校していることを確認し、欠席した場合はクラス担任がその日に電話連絡するなど適切な在籍管理の体制を整備している。	4	現在の取り組みを継続する。	

<p>11-3 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか</p>	<p>留学生の専門科目に対する学修は、教員全員が各担当科目の専門用語を中心に毎週土曜日補講を行うことによってある程度補完している。また、1年次の定期試験には漢字にルビを振り、問題を理解して解答できるように努めているが、2年次は自動車整備士の国家資格取得対策として、ルビ振りは禁止している。留学生の入学手続きが完了した際、自動車に関する基本的な漢字を習得させるため、入学前トレーニングのテキストとその課題を配布し、解答を提出させ、添削を行っている。3月中旬から4月上旬の入学式直前までの間、本校の学則や守るべきルールについて、入学前教育を実施している。留学生の生活指導は、クラス担任を始め、国際交流室の職員がその任に当たっている。特に、アルバイトに時間を割き、成績不良となる留学生がいるため、このような者には、アルバイト時間を半減させるか、禁止する措置を取っている。下宿先は、本校の指定民間宿舎を職員が斡旋している。さらに、留学生が快適で有意義な留学生活が送れるよう、学校内外の手続きや、留学生として知っておくべきこと、役立つ情報などを掲載した「留学生ハンドブック」を作成・配布している。なお、留学生に配布する書類については、できるだけ漢字にルビを振っている。</p>	<p>4</p>	<p>昨年度の各クラスの留学生数は4～5名であったが、今年度は2～3名であり、昨年度と比較して教員の負担は軽減できた。次年度以降も現在の取組を継続する。</p>	
--	---	----------	--	--

<p>11-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</p>	<p>留学生は、二級自動車整備士の国家資格取得に向けて勉学に励んでいる。この資格を取得することにより、企業への就職が可能となり、国内での評価も高まるものと考えられる。そのためには、専門科目の修得はもちろんであるが、日本語能力試験の N2 レベル取得を留学生全員に義務付けている。しかし、N2 合格者は学年で 1 名程度であった。また、就職指導は進路指導センターとクラス担任がマンツーマンで行い、卒業予定者 6 名全員の就職先が決定した。このことは企業における留学生に対して高い評価が得られたものと考えている。さらに、二級自動車整備士の国家試験に関しては、特に留学生を対象に 2 月から特別指導を毎日行ったが、合格となった者は 6 名中 4 名であった。</p>	<p>3</p>	<p>N2 取得に向け、学内で講習会等の実施を検討したい。自動車整備士の国家資格取得は全員合格を目指したい。そのために、早い時期から留学生のみを対象とした受験対策指導を強化したい。</p>	<p>不合格が言語要因なのか、知識要因なのかははっきりさせてほしい。 6 名中 2 名不合格は留学生の受入れ体制として本当に適切に対応できているのか？というレベルだと思う。 今しっかりと体制を整えなければ、不幸な留学生を増やすだけだと思う。</p>
-------------------------------------	--	----------	--	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・平成 30 年度に初めて留学生 9 名を受け入れ、内 2 年生 6 名の留学生が卒業した。9 名中 1 名が退学、1 年次に留年となったものが 2 名（内 1 名は退学）であった。1 年生は 3 名が入学し、2 名が進級し、1 名が退学した。次年度は教育体制や在籍管理をさらに強化し、留年や退学者を低減させたい。
- ・漢字圏ではない留学生の最大の課題は、漢字の読み書きである。このことについては、時間をかけて習得させる他ないものと考えている。
- ・二級の国家資格全員合格に向けた対策を検討する必要がある。
- ・卒業予定者全員が就職することができた。次年度も就職率 100%を目指して、就職指導に力を入れていく。